

最近の消費動向（個別ヒアリング）

23年6月の大型小売店の売上高は、前半の気温が低かったものの、後半は気温が上昇するとともに、節電意識の高まりなどから、前年同月を上回った。

大阪産業経済リサーチセンターでは、消費動向を把握するため、百貨店2社、スーパー2社を対象にヒアリング調査を行った。

百貨店では、集客力の改善やアイテムの充実などにより、クールビズ関連や一部の食料品など、シーズン商品の動きが活発となった。スーパーでは、米などの震災特需が一巡する一方で、節電意識の高まりを反映した家電、衣料、雑貨などの売れ行きが好調であった。

百貨店A社

6月の売上げ状況をみると、前半は天候不順などにより夏物関連などが伸び悩み、前年同月比で減少した。しかし、月後半は気温の上昇などから、シーズン商品を中心に動きが活発となった。

***紳士服**：前年同月は微減だったが、夏物のカジュアル関連、靴などが好調で、扇子、ステテコなど父の日関連の商品も前年並みの売上げとなった。

***婦人服**：カットソー、ジャケットなど、ヤング・OL向けのアイテムは伸び悩んだ。

***子供服**：幼児向けのギフト需要は減少したが、ベビーカーなどのマタニティ・ベビーは前年同月を上回った。

***食料品**：惣菜、生鮮食品などは落ち込んだが、新ブランドを投入した洋菓子は活気があった。

***化粧品**：美白商品、メイキャップ、ファンデーションなどを中心に前年を下回った。

***呉服**：カジュアル着物は苦戦するも、やや高額なものなどフォーマル着物が好調であった。

***食器**：調理用品、鍋などが不振だった一方、ペアグラスや和食器の父の日向け商品が堅調であった。

百貨店B社

6月の売上げは、前年同月で若干減少した。集客力の改善により、来店客数は前年をやや上回った。また、節電意識の高まりから、クールビズ関連商品の需要が伸びた。

***紳士服**：夏物肌着やワイシャツなどのクールビズ関連、旅行関連商品などが好調であったが、ネクタイやスーツなどが伸び悩み、前年を下回った。

***婦人服**：ジャケット、スカートなどが落ち込んだが、セーター、パンツなど多くのアイテムで増加した。ミセス向けや大きいサイズ向けが好調で、アダルト層も改装効果により売上げが増加した。

***子供服**：雑貨・玩具が好調だったが、マタニティ・ベビー、幼児向けが減少したため、全体では前年を下回った。

***食料品**：生鮮、洋菓子が前年を下回り、全体では微減となった。ただし、3月末から注力している惣菜が堅調に推移し、涼味商品の動きも良かった。

***化粧品**：全体では前年同月比で微減となったが、月後半の気温上昇に伴って、ボディケアなどのUV関連商品の動きが活発になった。

***シーズン雑貨**：雨傘、帽子などが落ち込むなど、全体では前年を下回った。ただし、月後半は気温が上昇し、パラソル、ネックウェアなどが大きく増加した。

***家電**：販売額は小さいものの、扇風機を中心に売れ行きが好調で、前年を大きく上回った。

スーパーA社

6月の販売状況をみると、前年同月比で増加した。前半は多雨で気温も低かったことから、衣料品では夏物やUV関連商品が、食料品では農産物が苦戦したが、月後半の気温上昇により動きが回復し、衣料品、食料品全体の売上げは増加した。住居関連も扇風機やすだれなどの節電対策商品が引き続き好調であった。

来店客数は、衣料品、食料品、住居関連ともに増加したが、買い上げ点数は食料品と住居関連で前年を下回り、顧客単価は食料品で微減となった。

***衣料品**：月前半の低気温により、スカート、メンズ・ソフトジャケット、男児シャツなどが減少したが、後半は気温の上昇も影響し、紳士ハンカチ・小物、高機能性の紳士夏物肌着、レディース・スポーツシューズ、半袖カッターシャツ、レディース・カジュアルパンツなどが増加した。

***食料品**：天候不順による生育遅れなどから農産物は伸び悩んだ。涼味商品も中旬まで苦戦したが、下旬の気温上昇に伴って好調となった。震災による納豆やヨーグルトなどの調達難はほぼ解消され、その影響は弱まった。ただし、震災特需で堅調に推移していた米は、その後の反動減と市場価格の下落から不調となった。一方、節電意識の高まりから家庭で

の調理が不要な惣菜が好評であった。個別商品では、グレープフルーツ、国産タバコ、キャベツ、活貝、カツオなどが減少したが、オレンジ類、ローストビーフ等、中華惣菜、じゃがいも、カップラーメンなどが増加した。

***住居関連**：節電対策により、扇風機、すだれ、クール商材（冷却スプレー、冷却ジェル入りマフラー等）、冷感寝具などが好調であったが、下旬の高気温により動きが一層活発になり、一部品切れとなる商品もみられた。また、地上デジタル放送完全移行に向け、テレビやレコーダーが大幅に伸びた。個別品目では、電動自転車、フィットネス・マッサージ器、ガステーブル、羽毛布団、ベビー紙おむつなどが減少したが、すだれ等、レコーダー、液晶テレビ、敷きパッド、い草関連商品などが増加した。

スーパーB社

6月は入梅が早く、雨天や台風の影響により夏物が苦戦したことから、中旬までの売上げは前年をやや下回った。しかし、7月中旬にかけては気温の上昇から、水着などが好調な衣料品の売上げは前年並みに、リカーなどが好調な食料品は増加した。また、扇風機など節電関連商品が好調な住居・余暇関連は、売上げが大きく伸びた。

来店客数は、月前半に衣料品、食料品でやや苦戦したが、後半は衣料品、食料品、住居・余暇関連ともに増加した。月後半の顧客単価は、衣料品で低下したが、食料品、住居・余暇関連では上昇した。

***衣料品**：月前半は天候不順もあり、婦人カットソー、子供・ベビーTシャツ、UV関連商材などの動きが鈍かったが、速乾・消臭効果のある肌着、子供・婦人水着、紳士 Polo シャツなどは好調であった。月後半は気温が上昇し、上記商品に加えて海水浴小物、家庭用ビニールプールの売上げは増加したが、浴衣は苦戦した。

なお、父の日商戦については、機能性肌着、ステテコなどのインナー関連や、環境省のスーパークルビズの発表（5月中旬）を機に販売を強化した Polo シャツの動きが良かった。

***食料品**：相場の下落などにより、野菜、塩干・鮮魚など生鮮三品は月間を通じて不振だったが、ビール、ワイン、冷凍食品、刺身などが好調であった。特に、夕方からの販売を強化した惣菜は、節電意識が高まるなか、家庭での調理の手間が省けることから堅調に推移した。

***住居・余暇関連**：環境に配慮した生活様式や節電意識の高まりもあり、月前半は敷きパッドなどの冷感寝具、自然素材（い草等）のカーペット、扇風機などが増加した。月後半は気温の上昇でさらに動きが活発となり、上記以外にもエアコン、殺虫剤（虫除けスプレー、蚊取り線香等）、水筒、ガラス食器、冷蔵庫、洗濯機などが良かった。

また、地上デジタル放送への完全移行を目前に、液晶テレビ、レコーダー、デジタルテレビチューナーの売上げも増加した。

大阪府の消費に関する経済指標

(単位：百万円、台、%)

		23年					
		1月	2月	3月	4月	5月	6月
大型小売店計	販売額	144,919	120,951	133,848	133,487	137,073	137,973
	(前年同月比、全店ベース)	0.1	-1.3	-2.6	1.5	2.5	4.1
うち百貨店	販売額	70,313	56,643	65,878	63,776	66,911	65,752
	(前年同月比、全店ベース)	-0.7	-0.6	-3.2	4.7	8.3	7.4
うちスーパー	販売額	74,606	64,307	67,970	69,711	70,162	72,221
	(前年同月比、全店ベース)	1.0	-1.8	-2.1	-1.3	-2.5	1.3
コンビニエンスストア販売 (近畿)	販売額	98,608	93,985	107,428	100,013	107,125	110,230
	(前年同月比、既存店ベース)	4.3	5.6	7.4	0.5	4.6	8.3
	(前年同月比、全店ベース)	6.9	8.0	9.8	3.0	7.1	11.0
乗用車新車販売	台数	13,315	18,013	19,074	7,824	9,910	14,932
	(前年同月比)	-17.8	-12.6	-32.9	-50.3	-36.8	-23.9
家電販売(近畿)	(前年同月比)	-18.1	-6.2	-14.9	-3.0	7.4	...

資料：【大型小売店販売額】近畿経済産業局「管内大型小売店販売状況」。前年同月比は各店舗調整済みの値。

【コンビニエンスストア販売額】近畿経済産業局「管内大型小売店販売状況」（参考資料）。

【乗用車新車販売台数】(社)日本自動車販売協会連合会、(社)全国軽自動車協会連合会。

【家電販売額】近畿経済産業局「近畿経済の動向」。